

日本百名山 登山日記

歩みを止めなければ、いずれ頂に辿り着く、そんな山日記です

vol.41 筑波山、那須岳(日本百名山 55,56/100)

前回の北海道 雌阿寒岳に続き、今回も『週末に飛行機で行ける百名山』として、北関東の2座を記したいと思います。

山口県から飛行機で東京に向かうなら、羽田空港を利用するのが一般的だと思います。但し、今回登る百名山は茨城県にある筑波山および栃木県的那須岳となります。

よって、飛行機は LCCのピーチかジェットスターしか選択肢はありません。なぜなら、羽田空港からレンタカーを利用した場合、都心を通過しなければならぬため、時間が読めなくなります。公共交通を使うことも考えられますが、どちらにせよ登山口まではレンタカーが必要となります。そこで、先の航空会社ですが、これらは福岡から成田に飛んでいます。これは、すごく便利です。一般的に成田空港は国際線がメインで、LCCの就航していない地方空港からの便はたぶん飛んでいません。

という事で、今回の週末登山は、またまたかなりお安いピーチ航空のお世話になりました。

さて、飛行機を使った週末登山ですが、どの山にも適用できるわけではありません。土曜日、日曜日という短い時間の中では、登山に割ける時間は限られます。

飛行機の到着時間にもよりますが、空港の出入りやレンタカーの手続き、車での移動時間を考慮すると概ね、土曜日に4時間、日曜日は深夜から動けば別ですが、常識的には昼前までの6時間程度となります。という事で、飛行機で週末登山できる山は、北関東から東北地方、北海道に限定されます。

アルプスなどはとてもじゃないですが、時間的に無理ですし、その他の山域も空港から登山口までの移動時間や宿泊を考えるとかなり難しいと思います。



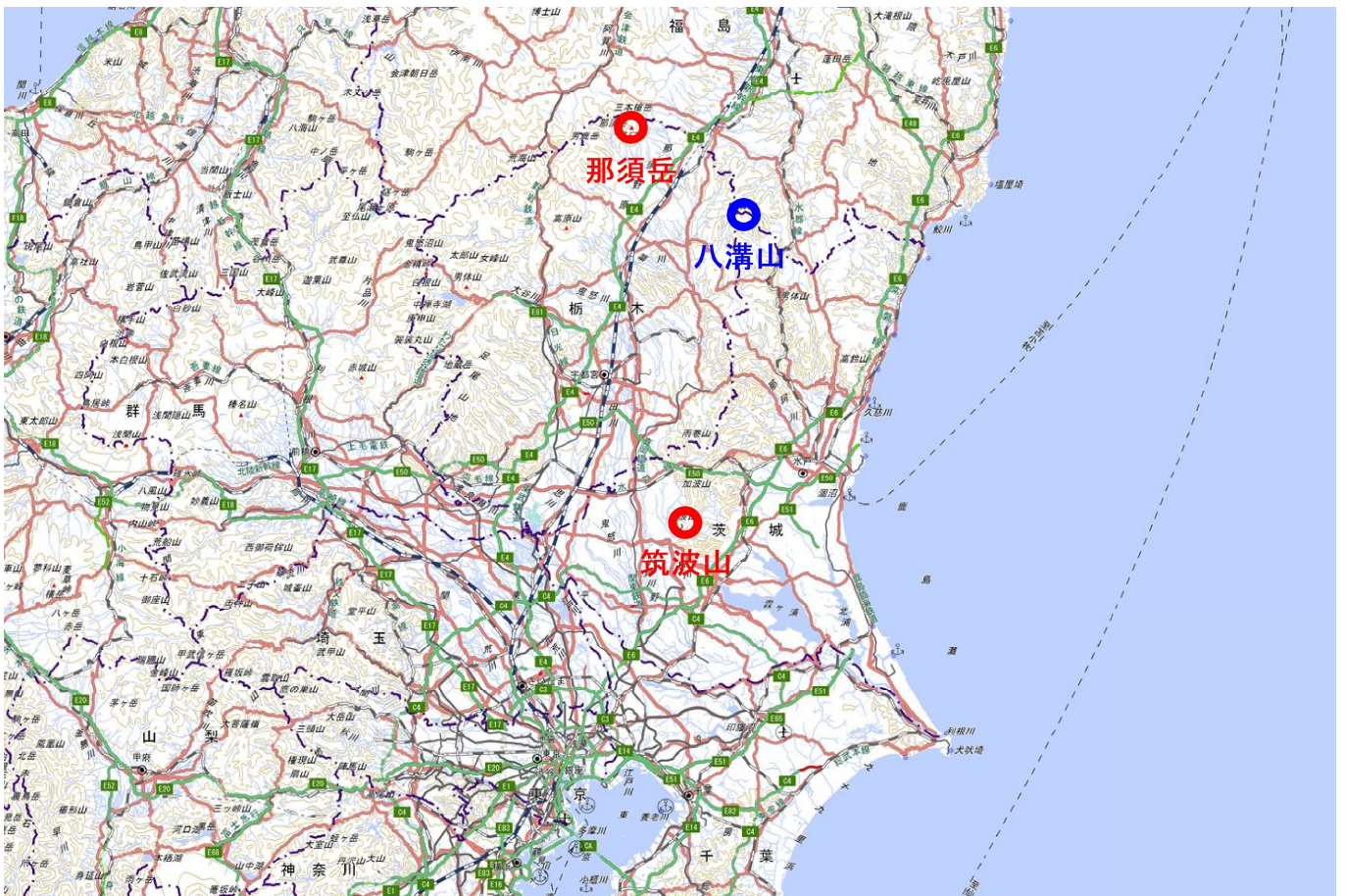
稜線上にある峠の茶屋から見る那須岳（茶臼岳）

まず、茨城県にある筑波山です。筑波山は標高877mで日本百名山の中で一番低い山になります。コラムvol.0にも記しましたが、日本百名山は故 深田久弥氏が「品格」「歴史」「個性」の三つを基準に自分の判断で選び、原則として「標高1500メートル以上」の条件を加えて「百名山」としました。さらに選定条件として、自分が山頂に立った山に絞っています。さて、この筑波山についてですが、深田久弥氏は以下のように記しています。

『筑波山を日本百名山の一つに選んだことに不満な人がいるかもしれない。高さ千米にも足りない、こんな通俗的な山を挙げるくらいなら、他にももっと適当な名山がいくらでもあるではないかと。しかし私があえてこの山を推す理由の第一は、その歴史の古いことである。（中略）、これは奈良朝初期に出た「常陸風土記」の中に出てくる記事であるが、おそらく常陸の国の人々の間には、それよりずっと前から語り継がれていた話に違いない。』

「常陸風土記」だけでなく、「万葉集」にも筑波山を詩歌にしたものはたくさんあるとされています。このような歴史の古さ、地元の人々に愛され、登山者が年間を通して絶えることの無い山、私自身も筑波山に登って本当にそう思いました。

ちなみに、気楽に登れる低山であり、またロープウェイもあることから、登山者が信じられないくらい多いことはリサーチ済み、飛行機の到着後から向かうので朝イチの人が少ない時間に登るのは無理、一般的な登山道は駐車場確保も困難ということから、観光客がほぼ足を踏み入れることの無いであろう北側の女体山・キャンプ場コースを選択したことにより、それなりに静かな山歩きが出来ました。但し、山頂付近で一般登山口からの登山道と合流すると、まるで芋洗い状態でした。



ヤママップ地図より転記

次に栃木県的那須岳（茶臼岳）です。那須岳是那須連山の総称で、主峰は茶臼岳となります。これらは那須火山群に位置しており、周辺には多くの温泉が噴出、また付近一帯は硫化水素、亜硫酸ガスなどの有毒な火山ガスが絶えず噴出しており、「鳥獣がこれに近づけばその命を奪う、殺生の石」として松尾芭蕉の「おくのほそ道」にも記されている古くから知られた名勝となっています。

尚、この付近ではタヌキやキツネの死骸が見つかっており、また2022年には殺生石近くでイノシシ8頭も死んでいます。

さて、那須岳（茶臼岳）ですが、標高は1,915mとなります。登山したのは11月の末で山は既に冬の装いを纏った時期でした。冬の那須岳は風が強いとされており、これは日本海側からの北風が福島県会津地方の地形により那須岳方面に集まりやすいとのことからです。

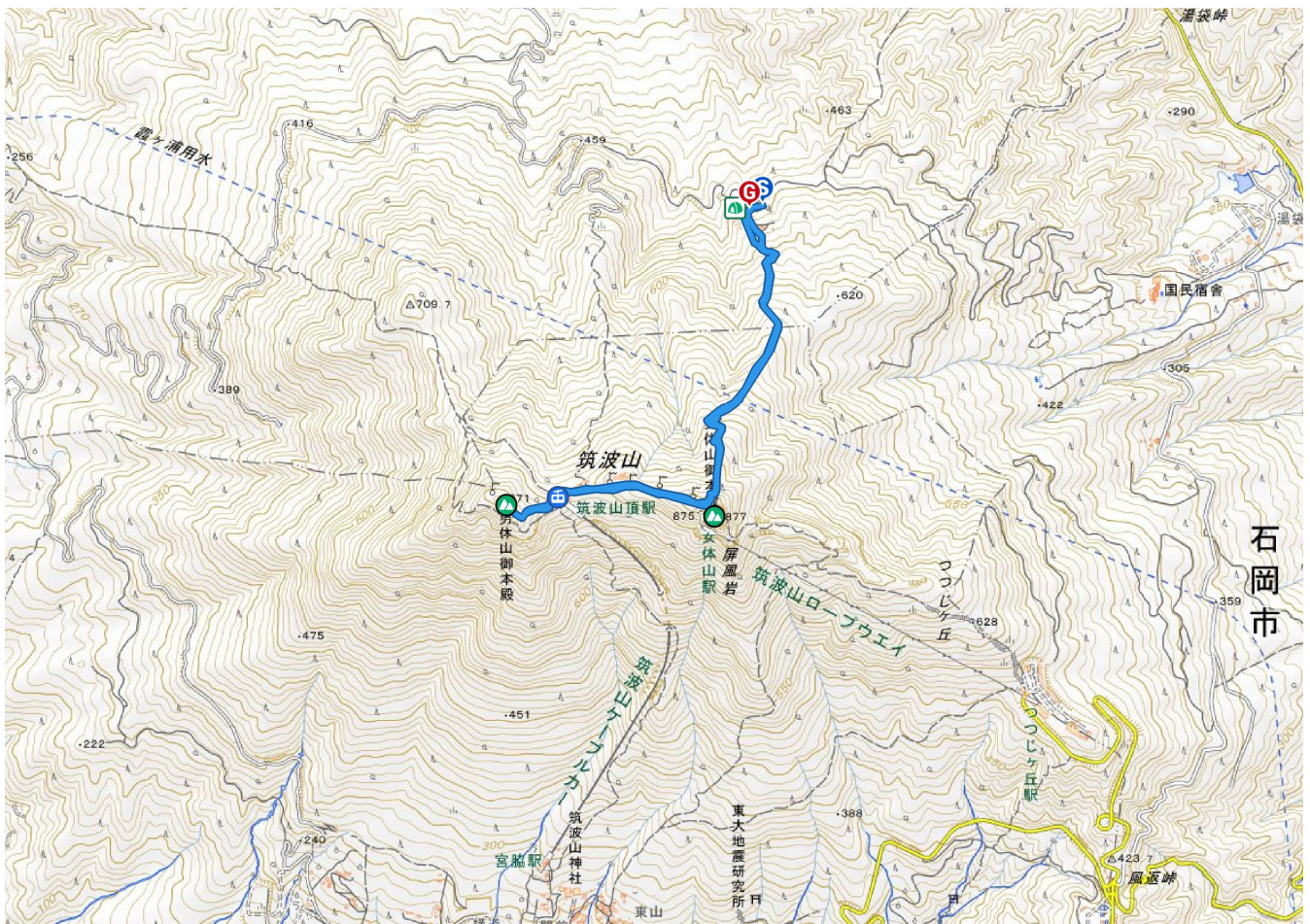
そのため標高2,000mに迫る山でありながら、主稜線の雪はそれほど多くありません。

しかし、問題はこの強風です。記憶に新しい2023年10月7日、私が登った約一年後になりますが、男女4人が低体温症で亡くなられました。当日は、山頂で身体をかかめてないと吹き飛ばされるほどの強風だったそうです。私が行った時も、この強風と低温に苦労しました。

標高の高い山では、平地とは比べられないほどの強風や低温に晒されます。天候の良い日を狙っていったとしても、山の天気は瞬時に変わる事も多く、一瞬で登山者に牙を剥いてきます。

山に登り続ける限り、滑落や行動不能による低体温症などで死亡する可能性は十分にあります。

危険な目には遭いたくないですが、いくら対策をしてもリスクはゼロにはなりませんので、今後も十分過ぎるくらい安全に注意しながら残りの百名山を登っていきたいと思っています。



登山データ：距離 4.3km 累積標高上り 509m 登山区分 日帰り (ヤママップのデータを転記)



登山データ：距離 4.8km 累積標高上り 448m 登山区分 日帰り (ヤママップのデータを転記)

では、今回の遠征について報告します。

まず、1日目は筑波山を目指します。先にも記したように福岡空港から成田空港まで行き、そこからレンタカーを使用しました。

朝一の便に乗り成田空港へは9:25着、そこから高速道路移動で12:00過ぎに登山口のあるキャンプ場駐車場に到着です。リサーチ通り、駐車している車の台数も10台に満たない状況でしたが、スタートして35分後、女体山（筑波山は双耳峰）の山頂はすでに人、人、人、とりあえず山頂に到達後、すぐにもう一つのピークである男体山を目指します。こちらも道中から、人だらけ、登山道は渋滞、九割以上は一般観光客かそれに近い装備の登山者です。人混みをかき分けながら一気に登りますが、ちょっとした岩場などはどうしても渋滞に巻き込まれ進むことが出来ません。

予想を遥かに超えた人出に、正直、げんなりです。男体山の山頂を踏んだ後は、人混みから逃げるように下山しました。山の滞在時間は2時間もありません。これはこれで筑波山は人気の山と納得し、次の目的地である那須岳近く、那須塩原駅近くのビジネスホテルに向かいます。

そこまでの道中のついでに、茨城県最高峰の八溝山にも立ち寄りました。到着時には既に日が暮れて真っ暗でしたが、山頂まで車で登れる山なので問題なし。但し、暗闇の登山には慣れているはずですが、なんとも不気味な雰囲気山でした。

今、日本百名山に並行して各都道府県最高峰も登っているのですが、日本百名山＝各都道府県最高峰とはならず、別に24座（重複もカウント：広島県と島根県の最高峰は恐羅漢山）を登る必要があります。



キャンプ場 登山口です 少し寂しい感じ



途中は普通の登山道



稜線に出ると人の多さに唖然



一刻も早く下山したい 正面は男体山



昭和天皇御製



山頂への渋滞 過去登山、断トツの渋滞



男体山 山頂



下山、人の少ない登山道にして正解

さて、翌日はゆっくり5時に起床、5時半過ぎに宿を出発します。道中のコンビニで朝ご飯を買いそれを食べながらの移動です。

日の出を見ながら、午前6時半過ぎ、峠の茶屋登山口に到着しました。那須岳は、ロープウェイを使って山頂近くまで行く事も出来ますが、そもそもの往復距離が5km未満であるため、ロープウェイの始発が動く前にさっさと下山をする予定としました。

さすがに火山の山、登山道はすぐに荒涼とした茶褐色の大地と変わります。また、多少の雪も積もっており、雪景色を楽しみながら登ることが出来ました。

但し、山頂はガスガスを眺望を得ることは出来ず、また半端ない暴風であったのですぐに下山。山に居た時間は筑波山とほぼ同じ約2時間とピークハントするだけの、駆け足の登山となりました。

下山後は冷えた身体を日帰り温泉で暖め、一路、成田空港へ向かい、機上の人となりました。



かろうじて日の出が見える、天気は曇天



火山の山らしい風景



時々、青空も見えるが山頂は怪しい



尾根まで来ると山頂方面は真っ白+暴風



茶臼岳山頂、まったく何も見えない、暴風で寒すぎ



下山時、朝日岳方面を見る